

特集 民生委員児童委員活動の協力支援体制

～ペア活動・班活動に取り組む民児協の実践交流会から～

インフォメーション

秋の褒章・叙勲	6
クローズアップ「この人」	7
新年のごあいさつ	8
エッセイ:ひとをつなぐ 「㊦添えし心」	8



民生委員児童委員活動の協力支援体制

「ペア活動・班活動」に取り組む民児協の実践交流会から

旭川市東部東光地区民生委員児童委員協議会では、令和3年度より市町村民児協活性化事業（テーマ特化型事業指定）のモデル指定を受け、「ペア制度導入による住民支援体制の再構築」について取り組んでいます。これに関連して、去る9月12日にペア制度・班体制による取り組みを先駆的に実践している当麻町民児協ならびに富良野市民児協の関係者との実践交流会を開催しました。その様子についてご紹介します。

令和3・4年度市町村民児協活性化事業（テーマ特化型事業指定）

旭川市東部東光地区民児協・当麻町民児協・富良野市民児協実践交流会録

1. 開催日時

令和4年9月12日(月)

13時30分～15時

2. 開催場所

旭川市とぎわ市民ホール

4階 多目的室

3. 出席者

(1)旭川市東部東光地区民児協関係者（3名）、猫山房良会長、高橋重治副会長、瀬尾祐一総務

(2)当麻町民児協関係者（4名）、

高谷博之会長、藤尾義次副会長、中島よし子副会長、高橋佑季事務局長

(3)富良野市民児協関係者（3名）

松田尚美会長、原あけみ副会長、柏倉正勝部会長

(4)道民児連関係者（3名）、佐川徹

会長、長谷川稔事務局長、馬川友和事務局長

(5)旭川市民児連関係者（2名）

柴田淳事務局長、藤本みひろ書記

以上、15名(役職は開催日時迄)

4. 実践交流会内容

■佐川徹 道民児連(旭川市民児連)会長あいさつ

みなさまご苦勞様でございます。

道民児連・旭川市民児連会長の佐川です。現在、東部東光地区で活性化事業のテーマ特化型指定を受け、一生懸命取り組んでおります。東部東光地区は、旭川市の中でも特に活発に活動している地区であり、猫山会長を先頭に委員一同が一生涯懸命動いています。



旭川市全体を見てみると、まだ全体が一丸となつて取り組んでいるわけではないので、他の地区にも

東部東光地区のいいところを見習い、少しでも吸収していくよう奨励しているところです。本日はせっかくの機会ですから、お互い

に活発な情報交換を行い、実のある実践交流会となりますよう期待いたします。どうぞよろしくお願いたします。

■実践交流

○柴田事務局長(旭川市)

それでは、各民児協より実践発表をいただきます。当麻町民児協さんからよろしくお願いたします。

○高谷博之会長(当麻町)

当麻町民児協の取り組みについては、副会長の中島より発表させていただきます。



道民児連
佐川会長

■人材育成の効果が期待できる仕組み

～令和2年度民生委員児童委員協議会等基本調査より～

区分	市		町村		全道	
	か所数	割合	か所数	割合	か所数	割合
同様の仕組みがある	21	7.9%	2	1.5%	23	5.8%
今はないが、検討中	51	19.2%	7	5.3%	58	14.6%
ない（未検討）	180	67.7%	119	90.2%	299	75.1%
欠損値	14	5.3%	4	3.0%	18	4.5%
合計	266	100.0%	132	100.0%	398	100.0%

道内の一部の民児協で実施されているペア活動や班活動のような、日常活動を通じた人材育成の効果が期待できる仕組みについては、市では21か所7.9%、町村2か所1.5%が「同様の仕組みがある」と回答しています。

「今はないが、検討中」である民児協は全道で58か所14.6%となっています。



当麻町民児協
中島副会長

○中島よし子副会長(当麻町)
12年前に、ある担当区域で女性の新任委員が委嘱されたのですが、その区域はどういうわけか着任した委員みんな1期で退任してしまい、経験を重ねた委員が育ちませんでした。その理由を調べてみると、新任委員が訪問する時に、高齢者とはいえ男性宅に女性1人では訪問しづらいということが浮かび上がりました。それが3年間積み重ねられて、やっぱり馴染めないで辞めてしまうのです。女性の民生委員にとって、一人暮らしの男性宅の訪問が一番苦痛なのです。そこで「私が一緒に行ってあげるよ」と同伴訪問を開始しました。2人で訪問すると、訪問先の一人暮らし男性高齢者の警戒心が1人の訪問の時よりも薄らぐようです。私の家は自営業



当麻町民児協
高谷会長

○柴田事務局長(旭川市)
ありがとうございます。それでは、次に富良野市民児協さんよろしくお願いたします。

委員を紹介することができました。2回くらい一緒に行って、3回目からは1人で行くようになって、それが始まりでした。街中などはいいですが、団地や公営住宅の一人暮らし男性高齢者宅の訪問は苦労するので、男女混合でベテランと経験の浅い委員を組み合わせてグループを作りました。行きづらいところは、そのグループの中で、男女のペアであったり、ベテランと新任のペアであったり、もしくは3人で訪問するということをやりと始めると、わりとスムーズに顔馴染みになつてもらえて、それから1期で辞めてしまう委員はいなくなりました。



高橋事務局



藤尾副会長

で昆布店を営んでいたのが、「昆布店の嫁です」と言う大抵受け入れてもらえて、新任

○松田尚美会長(富良野市)
班活動ということを考えたのは、平成21、22年度に道民児連からモデル指定を受け、住民支え合いマップに取り組んだことがきっかけです。住民支え合いマップは、担当区域の住宅地図に一人暮らしの高齢者、75歳以上の高齢者夫婦世帯や年齢に関わらず気なる方などのお宅を色分けしながら、地図上に可視化していくものです。誰が誰にどのように関わっているのか線で引き、地図に情報を文字でも加筆していきます。民生委員だけでなく、私自身、富良野に住み始めて何も分らないうちに民生委員を引き受けましたので、地域を知るためにはどうしたらよいかということから始まりました。私は自分のために必要だったので、マップ整備に飛びついたという経緯がございます。2年間かけて事業を受けるわけですが、最終的にどうしたらよいか分からないとか、各委員の理解度にはバラつきがあったので、近隣の区域の委員が集まって一緒にやってみようというのが始まりました。マップの取り組みを進めていく中で近く



富良野市民児協
松田会長

私にとってはとても心強く貴重なことでした。そして、富良野市民児協としてのマップ事業が進むに従い、班活動の大切さを確認していきました。住民支え合いマップを媒体として、班で話し合い、色々な情報を共有できる。ご近所の方も巻き込むことができる。さらには、マップは避難行動に役立つ防災マップにそのままなるわけです。そして、班体制で本当によかったと思うのは、地域で何か問題が起こった時には1人で行動せず、ラインも活用して班で情報を共有しながら、複数で対応できることに繋がっているというのが一

番の成果と感じています。

マップのお話をする「ハードルが高くてうちではできない」という意見も聞きます。確かに人を集めて話(情報)を聞き出すことは難しいというネックがあります。そこで、やる気があればまず一人で自分の持っている情報をマップに書き込みながら、周りを巻き込んでいく。すると、その過程で近所の世話焼きさんを発見できます。その方の情報も入れ込んでマップを広げていくことによって、私たちの民生委員活動の助けになります。そういうものを作っておけば、班内の委員がカバーし合うことも容易にできますので、住民支え合いマップは委員同士が助け合える要素が詰まったものだと思います。

これから一斉改選で新しい委員も入ってきますから、マップを活用して引継ぎします。今年からは班ごとに引継ぎを行います。

これから一斉改選で新しい委員も入ってきますから、マップを活用して引継ぎします。今年からは班ごとに引継ぎを行います。



①原あけみ副会長



②柏倉正勝部会長

も入ってきますから、マップを活用して引継ぎします。今年からは班ごとに引継ぎを行います。

うことにしています。引継ぎの際、複数の人間が関わることによって、新任の方には少しでも心強く感じてもらえればと考えています。このような形で富良野市では取り組んでおります。

○柴田事務局長(旭川市)

ありがとうございます。最後に旭川市東部東光地区民児協からよろしくお願いいたします。

○猫山房良会長(東部東光地区)

今、富良野市さんの取り組みは正に先進的な実践だなと感じて聞かせていただきました。また、当麻町さんの一人暮らしの男性宅へ女性委員が訪問するのは難しい面があるというのは、うちの民児協でも同じですから、それをクリアするための班活動はとも参考になりました。一方で私たちがすぐに取り組んでいくには、少しハードルが高いかなとも思いました。

マ特化型事業指定を受けました。令和3年度に1年目取り組み、その反省と課題を踏まえた本年度の取り組みについてご説明します。指定テーマは「ペア制度導入による住民支援体制の再構築」ですが、ここが大事なところで、いつでもどこでもペアで活動するのではなく、必要に応じて担当区域内の委員が2人ひと組になり、相談支援を行う仕組みづくりを行う2年目です。いろいろな対象の方がいらつしゃいますが、高齢者や障がい者、子育て世代の方などに何とか具体的に支援していくのです。そうした支援を通して、共通の課題に触れ委員相互の力量向上を図ります。さらにこれを通じて委員同士の絆を深めることも目的としていて、むしろ私はこちらの方が重要と考えております。

想定されるペア体制は原則、隣接する区域の男性委員と女性委員のペア、但しケースによっては区域担当委員と主任児童委員のペアであったり、男性委員同士、女性委員同士のペアが考えられます。旭川では「うぶごえの贈り物事業」を実施しており、プレゼントを届ける役割を民生委員が担っていますが、これは必ず主任児童委員とその区域の民生委員と一緒に訪問することにしていて、大変喜んでいただいています。今、理想的に隣接する区域の委員がちょうど男女の配置となっていて、ペアも基本的には男女のペアにしています。事例をご紹介しますが、ある区域でうぶごえの贈り物事業のペア訪問をした時に、たまたま名字が同じ別のお宅に訪問してしまふことがあって、その時に片方の委員が何かおかしいと感じ間違いに気づいたということがありました。やはり、単独での活動には、リスクがともなうこともありますので、ペアで訪問することでチェック機能が働いて間違いが防げたということだと思えます。



東部東光地区
民児協 猫山会長



瀬尾総務



高橋副会長

されてとても喜んでおられました。やはり、女性のお宅に男性委員だけで訪問するよりも、女性委員が行けば安心して何でも話せるのかなと思いますし、仕組みを変えることによって訪問される側は安堵したり、いろいろな情報を話してくれたらいいこともなるのかと思います。もしも、女性委員が担当している区域で、先ほどの当麻町さんのケースみたいに、ちよつと苦手な男性宅を訪問する場合は、男性委員とペアで一緒に行くかどうか、男性委員2人で訪問するだとかということも効果があるのではないかと思います。それぞれのケースによって、どのようなペアで訪問することが効果的なかを考えていけばよいのではないかと思います。

次の事例です。旭川市では77歳喜寿のお祝い金の配布事業が始まり、民生委員が配るのですが、現在ある委員が病気療養中で

訪問活動ができません。そこで近隣の委員2人でペアを組んで、その委員をフォローしています。知らない地域ですから、1人では難しいこともあるので、そこでペアを組んで訪問するのです。もう一つは12月に新任委員が入ってきたので、ベテラン委員と一緒に訪問してもらうことによって、民生委員の活動を理解してもらい、実際の訪問の様子を見て勉強してもらえるのではないかと考えています。改選期を迎えて初めて実施してみることですが、そのようなことを考えて取り組んでいます。

○柴田事務局長(旭川市)
それぞれの民児協の実践を伺うことができました。ありがとうございます。最初にご発表いただきましたが、何か付け加えること、言いたいことはありますか。

○高橋佑季事務局長(当麻町)
今後の課題になってくるかと思いますが、この3年間コロナ禍もあり、活動自体が思うようにできなかった、班体制を上手く活用できなかったという思いが事務局としてあります。同じような思いは委員の中にもあって、今後、一斉改選後に班の構成を見直しながら、

班で集まる機会を設けて情報共有を行い、もっと密に連携していけたらと考えています。

○柴田事務局長(旭川市)
富良野市民児協さんからは、付け加えること、言いたいこと何かありますか。

○松田尚美会長(富良野市)
決してマップのためにグループが作られているのではなく、マップが一つの材料となってグループ・班活動がしやすくなるという捉え方をさせていただきたいと思っています。富良野市では、54名の委員を13の班に分けており、原副会長と柏倉副会長のところはとても上手くいっている班です。でも中には班活動が上手くいっていないところ、マップが共有できていないところもあります。初めから上手くいくことではなく、徐々にその良さが分つてきたり、共有ができてきたりするようにないかなと思います。富良野市全体の足並みが揃っているわけではなくて温度差はありますが、上手くまとまってくればとても心強い活動になってくると考えています。私は、ただ班で活動しても欠員の補助にはならないと思っています。隣り町同士といつても、自分の町

内のことも分からないことがたくさんあるのに、他の町になるともっと分かりません。でも、そこに委員が欠員となった区域のマップがあるから、その中で話が見えてくるということがありますので、やはりマップなしではグループの活動は上手くいかないのかなと思います。それが、マップが一番の材料となるということですが、やはり、全体の足並みが揃って定着化していければいいなと思っています。

○原あけみ副会長(富良野市)
先ほどの事例のことで、同じ班の隣りの区域の委員から「○番号の○○さんの連絡が取れない」と連絡があった時に、手元にマップがあったからこそ、隣りの区域でもすぐに所在地を確認できて、現場に向うことができました。その時マップがとても役に立つたことを思い出しました。

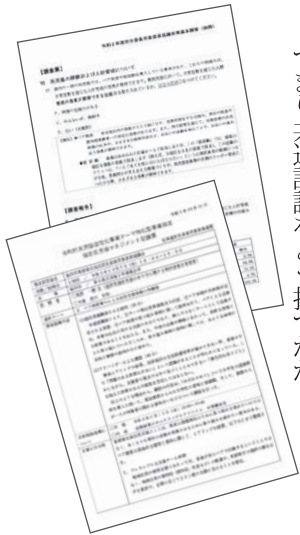
○柴田事務局長(旭川市)
東部東光地区民児協さんは、いかがでしょうか。

○猫山房良会長(東部東光地区)
富良野市さんで54名を13の班に分けるとなると、1つの班あたり4人くらいですか。

○松田尚美会長(富良野市)

4人から7人になります。7人のところはすごく広い地域で、でもそこを2つとか3つに分けられないので、その地域全体で7人の班としています。他のエリアが広い地域も、その地域全体でマップを1つにしてしまつて、3人の班にしています。(実際の地図を広げ補足説明し)委員が集まって話し合いながらマップを作成すると、委員同士が繋がってきます。ですから、何かの時には3人が同じマップを持っているので、助け合いができるという成果が上がっています。マップによって、一目瞭然に次の行動が容易にできて、委員同士が支え合う協力の道具になっています。また、町内全体でマップを作成する時も、次から次にいろいろな話や新たな気づきが出てきて、その場にいると、見守りの気運の高まりを感じます。マップを作ることが目的ではなく、そのあとに町内の方が嬉しくなるくらい協力してくれるようになるというのが大きな成果と思っています。

○猫山房良会長(東部東光地区)
地図を作ることが目的ではなく、地図を通して支援を工夫していくということですね。



○松田尚美会長(富良野市)

そうです。マップが共通の話題を引き出す道具になるということです。支え合いの状況は常に変わっていきませんが、都度ではきないので、年に一度見直しをすることにしています。

○猫山房良会長(東部東光地区)

私どもは、今年度で活性化事業のモデル指定が終了しますが、次年度以降も続けて行こうと思っています。大事なのは委員のアイデアだと考えており、皆で話し合いながら工夫して進めていけたらと思います。また、わが地区は、困窮世帯が少ない地域で課題もさほど多くありませんが、市内では課題を多く抱えている地域もありますので、子どもの取り組みが他の地区の参考になるように取り組んでいけたらとも思っています。

○高橋重治副会長(東部東光地区)

富良野市さんに、住民支え合いマップを町内会と情報共有、連携する方法についてお伺いできますか。

○松田尚美会長(富良野市)

あまりにも個人情報にこだわると、助け合いは始まりません。どこで線引きするか、つまり共通認識をどう持つかが

必要だと思っています。私は、初めて住民支え合いマップを見た時に、これは防災マップになると思いましたが、「マップを作った避難訓練をしませんか」と町内に呼びかけたら、皆が協力してくれて進めることができました。でも、町内会に入っていくには

難しい部分がありましたので、防災を切り口に行政を巻き込んでいくことが必要だと思います。様々な働きかけを行い、試行錯誤しながら10年かかりましたけど今日に至っています。それから、生活困窮者が少ないと思っても、地域には必ず「気になる人」がいると思います。声をあげられない人や申請していても支援が必要な人はいるので、その手助けをする民生委員としては、マップを作る過程で出てくる情報が重要な手がかりになるものと考えています。

○高橋重治副会長(東部東光地区)

訪問する側としては、複数で行くと強い部分がありますし、また、同性ならあるいは異性なら話しやすい、話しにくいというところもあると思います。訪問される方も相談できる相手、自分のことを心配してくれる人が増えることになると思います。その中で、どのくらい本意を伝えてもらえるかは分かりませんが、きっかけにもなればと思っています。当麻町さんのグループ体制は、顔見知りが増えるのはとてもいいことだと思っていました。委員としても、自分を支えてくれる人が周りがあると実感できると思います。富良野市さ

んのマップ作りは、お話を聞いて「防災マップ」はとてもいい切り口だと思いました。とても参考になりました。ありがとうございました。

○松田尚美会長(富良野市)

旭川市では町内会に加入する人が減っているという伺います。富良野市でもアパートやマンションの入居者が未加入ということがありますが、町内会に入っていない方は支援しないということにはならないと思います。そこで、複数の目でマップを作ると、見えないところも見えてくることだと思います。何かの時には役に立つかと思えます。また、長年やっていて思うのは、複数で何うことで相談してもらえらることもありますし、委員が複数で、班で活動することによって、委員同士でも相談ができるので、委員が1人で抱え込まないですむと感じています。

○佐川徹会長(道民児童連・旭川市民児童連)

現場の活動は大変です。それぞれの地域の状況や環境により、それぞれの苦労があります。私は委員のみなさんに目標を持つて活動するように奨励しています。誰かがアイデアを出して、それが良いものであれば、みんながついてきます。新しいことに取り組むことは、最初は大変ですけど、どんどんやってください。ダメなら修正すればいいのです。「明るく楽しく元気よく」この今の時代に必要な取り組みを進めてもらえたらと思います。

受章おめでとう
いぎいます

「令和4年秋の褒章・叙勲」

令和4年度、秋の褒章・叙勲で、受章された民生委員児童委員の方々をご紹介します。(敬称略)

●秋の褒章・叙勲受章者

◇藍綬褒章

- 寺山 聰 (室蘭市 現)
- 三枝 光子 (網走市 現)
- 高岡 昇 (日高町 現)
- 門間辰太郎 (木古内町 現)
- 岡部 忠義 (砂川市 元)
- 野崎 信輝 (苫前町 元)
- 佐藤 好広 (訓子府町 元)

◇叙勲受章者

- 旭日小綬章
永田 正記 (北見市 元)
- 旭日双光章
松尾 正寿 (函館市 現)
- 加賀屋 修 (佐呂間町 元)

◇瑞宝双光章

- 佐藤 幹雄 (函館市 現)
- 太田 寛 (旭川市 現)
- 清川三十四 (むかわ町 現)
- 岡田 勝行 (北見市 元)
- 大橋 憲義 (江別市 元)

◇瑞宝単光章

- 木村 一雄 (函館市 現)
- 佐々木 孝 (小樽市 現)
- 菅原 俊二 (江別市 現)
- 坂本 道男 (千歳市 現)
- 得地 康則 (栗山町 現)
- 吉田 利継 (利尻富士町 現)
- 森田 信子 (小樽市 元)
- 本間 輝子 (夕張市 元)
- 林田 光広 (千歳市 元)
- 紫竹 登 (長沼町 元)

この人

猿払村民生委員児童委員協議会
世永千明さん

猿払村は、北海道宗谷総合振興局北部に位置する村。「葦原・河口」を意味するアイヌ語の「サルプツ」を由来とするように、村内を猿払川や猿骨川、鬼志別川といった河川が貫流し、その中下流には北海道を代表する茫漠たる大湿原が拡がります。

開拓期以来、この湿原を灌漑して広大な酪農地帯が形成されてきたほか、日本有数のホタテの産地としても知られ、住民平均所得は全国の自治体中4位(2016年)を誇る二次産業のまちです。

このまちの子どもたちの未来を支え続ける世永さんを訪ねました。



主任児童委員ひとすじに

「気が付いてみれば、もう13年も経ってしまったのですね」。40歳代で委嘱を受けた当時を懐かしむように、世永さんは目を細めました。きっかけは、地域の自治会長だった前任の民生委員が退職する時に、是非にと乞われて引き受けたこと。当時は生活保護を受給されている方々のサポートをするのかな、といった程度の知識しかありませんでした。知識も力もない私は、正直なところ委員名簿に名前を連ねるだけでいいのじゃないか、くらしい気持ちでお請けしたものです。

世永さんが担当する浜鬼志別地区は、広い村内でも最も海沿いにある集落。人口は少なく、さしたる問題もあまり抱えていない地域だそう。そのお陰で「ゆったりじつくりと」委員の経験を重ねることができたと言います。

でも、前任者が世永さんに白羽の矢を放った理由は、ちゃんとありました。ちょうど委嘱の1年前から、地域の学童保育で子どもたちと関わる仕事を始めていたのです。世永さんは委嘱当初から、主任児童委員として活動することを求められていたのです。

英語教室がルーツ

そもそも世永さんが地域の学童と関わる仕事を始めたのは結婚前、苫小牧市にお住いのころに遡ります。当時、世永さんは大手のこども英会話塾で講師を務めていました。その後、猿払に移り住んでからも、地域の子どもたちを「コミュニケーション」に集めて、英語教室を主宰したのです。

「私の子どもたちが小さいうちは、同居していた義理の父母が面倒を見てくれました。せつかく積んできた経験を、猿払の子どもたちの役に立ててみたらどうかと、家族が背中を押してくれたのです。子どもに接するノウハウは、確かに身に付いていたかもしれませんが、それが主任児童委員につながってくるとは、当時は思いもよりませんでした。

現在、村内には小学校が3校あるのみ。複式学級も多いといえます。「学童保育をやるようになって14年目。通ってくる子どもたちは、地域に友達が少ないことで、寂しい思いを抱えているのではないかと思ったり時期もありました。時間を重ねるうちに私が気づいたことは、子どもも大人と同じ。話を聞いてくれる相手を欲しているというだけです。」

以来、世永さんのモットーはいっぱい聞いて、「いっぱい遊ぶこと」だ

そう。子どもも一人の人間として、敬意をもって向き合おうのだと言います。

「火の玉ストレート」
 に励まされ

ところで、世永さんが生まれ育ったのは、苫小牧でも中心部に近い地区。周囲は夜でもネオンが灯り、賑やかな街の音に包まれていました。一日中活気に溢れた市街地で育ったから、猿払に嫁いだ当初は、とても寂しかったと言います。「聞こえるのは波と風の音だけ。夜は真っ暗。冬になれば暴風雪が恐ろしい音を立てて吹きさらさびます。すごい場所だなんて。でも、やがてオホーツクブルーの海と空の美しさに気づき、ここに暮らす人々との絆も深まるにつれて、今ではかけがえのない「自分のまち」になったそう。

大の野球好きの世永さんは、とりわけて藤川球児さんの熱烈なファンだそう。阪神タイガースから米メジャーリーグへと渡り、帰国後は四国の独立リーグで活躍した「火の玉ボーイ」の姿に、世永さんは「すごい」と力を授けられたと言います。何事にも誠実に熱意をもって臨んで、楽しむ。子どもたちに向き合う世永さんのモットーも、もしかしたら藤川さんから受け継いだものかもしれません。



謹んで初春のお慶びを申し上げます

昨年中は本連盟運営につきまして、格別のお力添えを賜り厚くお礼申し上げます。

本年も誰もが安心して暮らせる地域づくりに向け、役職員ともども努力してまいりますので、一層のご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

令和五年 新春

公益財団法人 北海道民生委員児童委員連盟

会 長	佐 川	徹
副 会 長	梅 田	絹 子
	船 橋	優 子
	宮 下	利 明
常務理事	長谷川	稔
		他役員一同



エッセイ

ひときつなぐ

⑧ 添えし心

民生委員児童委員のなりたてです

福祉のキーワードは「添う」と学びました

添いし心のありようをあなたから学びます

身を添える

あなたの心細さを感じています

わたしのなせることは未熟です

あなたの身を案ずることから始めます

心を添える

あなたのつらさを教えてください

わたしのおもいをお話します

あなたはひとりで悩まないでください

手を添える

鳥居 一頼



あなたの手のぬくもりを伝えてください

わたしの手のぬくもりと合わせます

あなたとこころすることが仕合わせだそうです

あなたに添うと心が優しくなります

あなたが添うと心は和みます

二人で添うと心はあたたかくなります

あなたがいるから添う意味を学べます

あなたのおかげで添う目的が見えてきます

その行く先に添えし心が育ちゆくでしょう

きつとそうなるわたしは信じています

いまは未熟なわたしを受け入れてください

二人で添うと

仕合わせになれそうな予感がします

【筆者紹介】

鳥居 一頼氏(とりい かずより) 登別市出身。72歳。北海道教育大卒。道内で18年間教壇に立つ。道教委、道庁などに勤務後、室蘭・登別で小学校校長歴任。その後関西の私立大学の教授。現在、登別市きずな大使として地域福祉実践計画推進を支援する傍ら、各地で地域福祉アドバイザーとしても活動している。また、道民児連が設置した「民生委員児童委員協議会」のあり方に関する検討委員会の委員長をお務めいただいている。主な著書に「子どもと学ぶボランティア」(こっちゃんのボランティアに関する検討委員会)の委員長をお務めいただいた育のキーワードと指導のポイント(大阪ボランティア協会)、「子ども・共育・ボランティア」(長崎県ボランティア協会など)。